

令和7年度 学校評価書

学校名（東温市立上林小学校）

1 学校の教育目標 自己をひらき、ともに学び、たくましく伸びゆく、上林っ子の育成

2 経営の基本方針 “ふるさと上林”に生きる自分に誇りと自信をもち、「人・もの・こと」との関わり合いを通して、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

令和8年2月1日

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策	学校関係者評価委員の評価
	太字・重点目標		教職員	児童	保護者		
生徒指導	いじめ・不登校等への対応	○ いじめを許さない毅然とした指導と、適切な教育相談等を通じた不登校への予防的取組ができた。	3.6	3.8	3.6	○ いじめ・不登校への対応について、不安を抱えている児童の小さなSOSを見逃さぬよう、教職員が一丸となって取り組んできた。今後も児童と教職員、児童同士の温かな関わりと安心感のある居場所づくりに努めていく。また、日々の関わりを大切にしながら、いじめの早期発見と早期解決に努めていく。 ○ 基本的生活習慣の定着について、今後も家庭と連携しながら、相手の気持ちや状況に応じた心地よい言葉遣いについて指導を継続していく。 ○ 生活指導について、今後も日々の活動の中で気になることを見逃さず、適切な指導を続けていく。中学校進学や進級を意識しながら、社会性を更に高められるような声掛けを継続する。	・教職員は、言葉遣いに注意し、いじめの芽を摘むような細やかな観察と指導が行われている。 ・先生や保護者が手本となり、学年が上がるにつれて気持ちのよい挨拶ができてきている。 ・個別に対応した学習指導ができていていると感じる。俳句づくりでは愛媛新聞への投稿で意欲が高まったと思う。 ・授業参観の際に児童たちがパワーポイントを活用して発表を行っており、ICT機器の活用が進んでいると感じた。一方で、読書活動については受動的になっていると感じるため、好きな本の紹介など能動的な活動も必要ではないかと考える。 ・一人一人に対面授業をしているような雰囲気があり、より細やかで行き届いた指導ができてきている。 ・大学で学生を指導していると、AIの普及で考える力が低下するのではないかと心配している。AI等を使うべき場面とそうでない場面の指導も大切になる。 ・ICT機器の活用は児童たちにとって必須となる。同時に多方向から情報に触れる機会も増えると思うが、被害に遭わない教育も並行して行うことが必要と考える。 ・授業参観などで自分の意見をはっきり述べる姿に好感が持てる。個々が正しい行動を取れており、道徳、人権教育が行き届いていると感じる。 ・今後も学年の枠を越えた互いの認め合える仲間づくりを大切にしてほしい。
	基本的生活習慣の定着	○ 気持ちのよい挨拶や、正しい名前の呼び方、時と場、相手に合った言葉遣いをしようとする態度を育てることができた。	3.4	3.7	3.6		
	望ましい行動様式	○ 生活目標・安全目標に基づいて、指導の重点化を意識して指導を行った。	3.8	3.7	3.8		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	○ 学習意欲の喚起と個に応じたきめ細かな指導の充実により、基礎・基本を定着させることができた。	3.6	3.8	3.7	○ 基礎・基本の定着については、1人1台端末を活用して学習方法を工夫したり、紙媒体のドリルやプリントを継続的に積み重ねたりしながら、基礎的・基本的な学習の定着に努めた。今後も、児童一人一人の状況に応じて、きめ細かく指導・支援していく。 ● 家庭学習は全項目の中で一番低い結果となった。児童によって習熟度は異なるため、一斉に課す課題だけでなく、個の状況に応じた課題を提示するなど、児童一人一人が自ら取り組もうと思える課題の出し方を工夫する必要がある。また、発達段階に応じた望ましい家庭学習の在り方について、児童だけでなく保護者にも周知し、各家庭と協力しながら家庭学習の定着を図っていく。 ● 児童と保護者の評価は高いが、教職員は0.3下がった。ICTを児童の意欲を高める1つのツールとして捉え、必要に応じた効果的な活用方法を考え更なる授業改善につなげていく。教職員向けの研修を増やし、ICT機器に対する苦手意識を払拭していく必要がある。 ○ 読書活動の推進について、毎朝の図書館使用に加えボランティアによる定期的な読み聞かせ等、関係機関と連携しながら取組を続けてきた。児童が語彙力や想像力、感性や表現力を高めていけるよう、あらゆる教育活動の中で読書活動を充実させていく。	
	家庭学習の充実	○ 「家庭学習の手引き」を有効に活用し、家庭の協力を得ながら指導に当たった。	3.2	3.4	3.2		
	ICTを活用した授業改善	○ ICT 機器を有効に活用し、「分かる・できる・楽しい」授業への改善に取り組んだ。	3.2	3.9	3.9		
	読書活動の推進	○ 読書を通して、言葉を学び、感性や表現力、創造力を豊かなものにするため、読書環境の整備に努めた。	3.6	3.7	3.7		
豊かな心、健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	○ 道徳の授業の充実や、実践に結びつく道徳教育・人権教育に教育課程全体を通して取り組んだ。	3.4	3.8	3.6	● 道徳教育の充実について、教職員は0.3、児童は0.1、保護者は0.2下がった。生活の様々な場面で見られる児童の言動を見逃さず、より質の高い道徳教育や人権教育に結び付けられるよう、発達段階に応じた適切な指導を継続していく。ホームページや各種通信等で保護者や地域の方にも学校の取組を発信していく。 ○ 仲間づくり・集団づくりについて、学年を越えて児童同士が思いやりを持って協力し合う姿が見られている現状に満足せず、中学校進学等、環境が大きく変化しても対応できるような力を一人一人に持たせられるような指導を続けていく。 ○ 健康づくり・体力づくりについては、3.4ポイントと保護者の評価で2番目に低い結果であった。規則正しい生活習慣がもたらす効果を保健だよりで周知したり、昼休みの過ごし方を工夫したりして、健康面に対する意識の向上を図っていく。	
	仲間づくり・集団づくり	○ 相手の気持ちを理解し、互いに認め合い、協力し、助け合う人間関係づくりを推進した。	4.0	3.8	3.7		
	健康づくり・体力づくり	○ 早寝早起き朝ごはん、うがいや手洗い、歯磨き等の習慣を身に付けさせるとともに、児童の体力についての現状や課題を把握し、体力向上に関する指導を推進した。	3.8	3.8	3.4		
特別支援教育	特別支援教育の充実	○ 授業のユニバーサルデザイン化を図るなど、特別支援教育の趣旨を生かしたよく分かる授業展開に努めた。	3.6	3.7	3.6	● 特別支援教育について、児童は0.1下がった。毎週児童の様子や効果的な関わりについて情報交換を行っているが、一人一人の児童の特性を把握し、有効な指導につなげられるよう、研修の在り方を工夫する。	
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	○ 家庭・地域・関係諸機関との連携による登下校の安全確保や不審者対策を実施し、安全で安心できる学校づくりができた。	3.6	3.9	3.8	○ 登下校の安全確保について、児童は0.2上昇した。家庭・地域の方の協力の下、日々の見守り活動が充実している成果と考える。今後も家庭・地域と協力しながら児童の安全を確保していく。 ○ 防災教育の充実について、児童は4.0の最高評価であった。避難訓練では、火災発生現場の回避や予告なしの訓練など、状況を変えたり、消防署と連携したりしながら実施した成果と考える。 ○ 安全管理は保護者で3.4ポイントと2番目に低い結果であり、保護者が学校に対してより高いレベルの安全管理を望んでいることの現れと考える。学校が児童にとって安全な活動の場となるよう、教職員同士で厳しく確認し合っていく。	
	防災教育の充実	○ 防災マニュアルを策定し、日々の教育実践に役立てるなど、「みんなの命をみんなを守る」「自分の命を自分で守る」児童の育成に努めた。	3.8	4.0	3.8		
	施設・設備の安全管理	○ 安全点検の徹底による潜在危険箇所の早期発見・完全除去及び防災・防犯につながる備えの確認をした。	4.0	3.7	3.4		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	○ 地域の人材を講師として活用したり、運動会、学芸会、稲作等の行事運営をPTAや地域と協力して行ったりするなど、学校運営協議会と連携して地域に開かれた教育活動を推進した。	4.0	3.8	3.9	○ 開かれた学校づくりについて、児童・保護者とも上昇し高い評価であった。学校運営協議会を中心に培ってきた、学校・家庭・地域のつながりが児童や家庭に浸透した結果と考える。地域人材を活用した本物から学ぶ体験や、地域の方々との温かい交流を通して、児童の自己肯定感を育むことができた。 ○ 情報の共有化について、児童は0.2上昇し保護者は0.2下がった。地域とともにある学校を目指して校報「血ヶ嶺とコミスク」を全世帯に配布している。ホームページも毎日更新するなど、全校体制で開かれた学校づくりに努めている。今後は、学校での児童の様子や学校と地域のつながりなども細かく発信していく。	
	情報の共有化	○ 学校だより(学年だより)、ホームページを工夫・充実し、保護者に児童の様子や学校の方針を理解してもらえるよう努めた。	4.0	3.6	3.7		
特色ある学校づくり	緑の少年団	○ 緑の少年団活動への効果的な指導を通して、地域の美しく豊かな自然環境を守ろうとする態度を養うことができた。	4.0	3.9	3.8	○ 緑の少年団活動の一環として、地域の公園の清掃をしたり、手づくりの環境ポスターを自らの手で貼ったりすることで、地域の自然を守り育てていこうとする意識が育っている。 ○ 栽培活動について、児童で0.2下がった。農業に携わる地域人材を招いて、農家の努力や工夫について学びを深める機会を設けているが、児童が上林の主要産業である農業をより身近なものに感じられるよう、体験的な活動の機会を充実させていく。	
	栽培活動	○ 植物や野菜等の栽培活動を充実させ、自然を愛護し、自他の生命を大切にしていこうとする態度を育てることができた。	4.0	3.7	3.9		
施設・設備の充実	施設・設備の効果的な活用(ICTの有効活用)	○ 教育効果を高める環境整備と施設・設備・備品の有効活用を行った。	3.6	3.9	3.7	○ 環境整備については、保護者が0.1下がった。教育委員会と連携して早急な対応に努めているが、児童が安心して学校生活を送れるよう、今後も施設・設備の充実と改善に取り組んでいく。 ○ 学習・生活環境充実について、児童で0.2、保護者で0.1下がった。児童の思いが表れた掲示や季節感のある掲示などの工夫を重ねていく。また、児童一人一人の成長が視覚的に分かるような掲示や、地域の方との交流や触れ合いなどが表現できる環境も整えていく。	
	学習・生活環境充実への取組	○ 一人一人を大切にしたい掲示や安らぎと潤いのある環境づくりに努めた。	3.8	3.6	3.8		